

図書館だより

埼玉県立図書館

31号



(埼玉翡翠の会提供)

しらこばと

日本では越谷地方を中心にしか生息が確認されていない、大変貴重な鳥である。

そのためか、昭和三十一年には国の天然記念物に、昭和四十年十一月には埼玉県民の鳥として指定された。鳴き声は、ポッー・ポー・ポと一般的にはきこえるが、ハットー・ポともきこえる。そのためかこの地方の赤ちゃんが最初に覚える歌はポッポッポ、ハトポッポの歌であり、昔から歌われているこの歌は越谷地方がその発祥地なのではないかとの錯覚さえ覚える。鳩はいつも二羽で飛んでいるときが多い、おそらく夫婦であろう。

その鳩も一時絶滅が心配されるほど減少したが、ふたたび数が増えたことは「平和」のシンボル鳩の代表として、また人なつっこい鳥として、私たちの生活の中に、いつくまで定着し、繁殖しつづけることであらう。

(川上昭一)

煮込みのそば

野口善雄

それは初冬のころ。夕方であった。

「少しばかりそばを打ったものですから」と、近所のお方から手打ちのそばの差し入れを頂戴した。

話によれば五割そばということであつた。

勿論、その晩の我が家の夕食はそばのおそば。そば特有のあのほのかな香り、減多に味わえぬ風味を堪能することができた。

さて、その翌朝にも、汁代わりにと残ったそばを煮込み仕立として重ねて賞味した。

ところが、ところがである。テレビニュースに見入りながらの食事だったためなのだが、家内は七味唐がらしをかけ過ぎてしまったものだ。今や大辛とか激辛とかがブームだとは聞いてはいるが――。

「あら、これは効き過ぎだわ」
「全部食べたからお尻が痛くなるから」
「食事中だというのに突如尾籠な発言」「もったいないけれどやめておこうかしら」などなど、いかにも惜しそに思いを残しながら、半分の余を

食べ残さねばならぬ仕儀とは相成ったという一席のお粗末。

――過ぎたるは及ばざるが如し。そんな戒めがあつたけれど、どうやら

――過ぎたるは及ばざるよりなお悪し。

というこの方がピッタリ。

それはそれとして、過ぎたるは及ばざるよりなお悪しとは、何も唐がらしの話に止まらないのではないのか。現代という世相をも云い当てていようであつた妙である。

・例えば写真週刊誌などをはじめとする各種情報誌の悪乗りし過ぎ。

・例えば、中学生間のいじめ報道取材の中での「やらせ」で話題をまいた某テレビ局のはしやぎ過ぎ。

・例えば、やれカラオケだダンスだと血道を上げ過ぎたかのような母親たちのうかれ過ぎ。etc

しかし、あまりにも身近かに具体例を並べ過ぎると、どこからどんな形でかの報復の唐がらしをたっぶり頂戴することになるかもしれない。というわけでこの辺までとしたいが、めいめいが胸に手を当ててみるなら、なおさまたま思い浮かぶのではあるまいか。

いずれにもせよ、数多社会問題、

青少年問題のその根つこもこの辺のところにあると思えるのだがどうだろうか。

この辺で「本」の周辺に視野を絞りこんでなお、思うことの二つ、二つ。

NHKのアナウンサー鈴木健二さんの「気くばりのすすめ」が一つのブームをまき起こしたのは何年前のことだろうか。たしかベストセラーの仲間入りをして何万部か何十万部かを世に送り出したのではなかったか。さらに、あれを読まれた人はその何倍かに及ぶはずである。というのも、かくいう私自身が同じ職場の女教師から「お読みになつてみませんか」と奨められ借用して駆け足のように読んだ経験をもっているのだから――。

ところで、その晩私はなぜ駆け足のような読み方をしたのであろうか。理由はいくつもある。先ず考えられるのはそれが借り物の本であつたから、早くお返ししたいから。汚したり、紛失したり許されないことだから。など、まだあつた。その頃、孔子も、孟子ものほどには読まれていないが、墨子のものに出逢っていたことによる。漢籍に親しみをもち合

せていたわけでもない。訳文が併記されているとはいえかなり努力を強いられた読書のその最中であつたから。その方を中断しなければならぬのが辛かつたから。

そこで思うことは、理由はさまざまであるにせよ、ブーム本、中でもノーハウもの、ハウツーものの読まれ方が、あの日の本に接した時のような「早食い、早めし」式が多いのではないかというのが一点である。早食い早めしというより、あの縁日の露店で商売されている「綿あめ」ほどにじゃ扱われていないかとさえ思える。

私の読み方がそうだったからといって、何百万、何千万の読者人を類推することは余りにも乱暴な断定であるとして、もう少し云わせていただくなら「気くばりのすすめ」が読まれたであろうその後、世の中の人間達の何がどう変つたのでしょうか。街中を歩いてみて、乗り物に乗ってみて、旅に出てみて、もつと身近な職場の中で。

いいえ、事態は以前にも増して乾ききって、冷えきって、ささくれだつてきているとさえ見受けるのです。

例えば街中で。これほど人間が出

歩くのだから手と手がぶつかり合うことも、肩と肩とがぶれ合うことも当然。

それはある土曜日の昼過ぎ。出勤する私は靴片手に電車を降りるとホームの階段をゆっくり下つていった。折柄下校を急ぐ高校生の一団が足早やに階段を昇つて来るのに出合ったものだ。私の方ではその通路を譲つたつもり。にもかかわらず、女生徒の片手と私の片手が激しくぶつかりあつたものだ。痛いとは思つたが声には出さなかつた。ところが件の女子高生「イテーナ」と叫びざま振り返つた形相のけわしかったことといつたら凄味がありましたわホント二。

これも、かの気くばり以後の話なのである。十年ほど前の女生徒達だつたら「ごめんなさい」といつてくれているのに。それが三、四年してそのくらい何ていうことはないさともいうふう互に知らん顔となつたものだが、今や前記のようにドナラレル時代とは相成つたという次第。と、すると読書とは何なのか。本とはもはや精神の栄養食とは機能しなくなつたのか。

それはそれとして、ある一時期私達の活字離れが取り沙汰されたことがあつた。そんな中で出版文化が息を吹き返したらしい話も伝わつて来た。喜ばしいといつていいのかどうか。依然サラリーマンのアタッシュケースの中には、スポーツ新聞とか女性の裸形をあしらつた週刊誌。女生徒の学生靴の中には二、三冊のマンガ本。OL達が小脇にかかえているのはグルメや旅の情報誌。

それらすべてが悪いというつもりはさらさらないが、せかせかした時代を映して、日ごろの不安、焦燥からくるストレスの緩和をだけ本に求めるとしたらやはり悲しい。

冒頭の煮込みのそばに唐辛子の話ではないが、過ぎたるは及ばざるよりなお悪し、本に精神不安の緩和だけを求め続けるなら、次に訪れてくるのはどんな時代だろうか。

お尻が痛み出さなければ、何より。

(県生徒指導推進委員 久喜市在住)



県内図書館めぐり

秩父市立図書館

豊かな歴史の町に

新館オープン

歴史と伝統の息づく秩父市に独立・新館がオープン(昭和六十一年十一月一日)した。

建設の基本方針は、明るく、親しみやすく、利用しやすいこと。この方針にもとづいて、館内中央に円型吹き抜けのスペースをもち、全体に柔らかく流動的で、ゆつたりした印象を与える図書館が建設された。

市民待望の独立・新館であるだけに、旧館になかつた視聴覚室・美術作品展示室、文化団体の活動の拠点としての講座・講習室、近い将来実施することを前提にしたBM室・積層電動書庫などが設置された。これ

によつて、一つの社会教育施設としての役割にと、まらず、複合的な文化活動施設・機関として、大きな期待をなう図書館が秩父盆地にも誕生したわけである。

概要

1、敷地面積 三、八一〇㎡(駐車場七六二㎡を含む)

2、鉄筋コンクリート造り三階建

3、床面積一F 一、三四九㎡

二F 一、二〇一㎡

三F 一、二七二㎡

4、一F 一般開架室・児童室・くつろぎコーナー・AVコーナー・事務室ほか

二F 読書室・参考図書室・郷土資料室・視聴覚室・講座室・書庫・ほか

三F 展示・集会室・実習室・会議室・書庫・ほか

5、蔵書計画 5年計画(12万冊)



所在地 秩父市上町3-6-27
TEL 0494(22)0943

文学散歩

<4> 川越を中心に

- 小林一茶紀行文「寛政三年紀行」「草津道の記」
 ■釈迦空歌碑 くずのはなふみしだかれていろあたらしこのやま
 みちをゆきしひとりあり (吉見町 松木氏邸)
 ■打木村治小説「天の園」第1部～第6部 (唐子)
 ■北川冬彦詩集「花電車」
 ■金子恵美子詩碑 太陽をとれ の詩 (西本宿 常安寺)

鳩山

- 浜田広介詩碑 童謡
 (鳩山聖地霊園)

東松山

- 万葉歌碑 武蔵野に占へかたやきまさでも告らぬ君が名占に出にけり
 卷十四 (富士見町 母塚)
 ■山上憶良長歌碑 山上憶良の令反感情の長歌 万葉集 卷五
 (永川神社)
 ■元全網歌碑 山さくら咲けば白雲散れば雪花見てくらす春ぞすくなく
 (熊野神社)

- 正岡子規句碑 枯うつ隣に寒きたびね哉 (八百助前)

- 島崎藤村の義母の墓 藤村 筆 (中院)

- 高浜虚子「武蔵野探勝」 (喜多院)

川越

- 正岡子規・夏目漱石の来遊
 (大宮公園)
 ■森 鷗外 小説「青年」 (大宮公園)
 ■寺田寅彦 随筆「写生旅行」 (大宮公園)
 ■太宰 治 小説「人間失格」 (大門町 O氏宅)

大宮

新座

- 道興准后 わか草のつまもこもらぬ
 冬ざれにやがてもかかる野火止の塚
 (平林寺)
 ■田山花袋 紀行文
 「東京近郊一日の行楽」 (平林寺)
 ■倉田百三 「絶対的生活」 (平林寺)
 ■上林 暁 「武蔵野」 (平林寺)

※この地域に関わっているすべてを記載して
 おりませんので詳しくは、各県立図書館
 所蔵の郷土の文学資料をご覧ください。

(関 田 史 郎 作成)

坂戸

- 万葉歌碑 人間道の
 大家が原のいはなつら引か
 ばぬるぬる吾にな絶えそね
 卷十四 (大家)
 ■万葉歌碑 くれなるの浅
 葉の野らに刈る草の東の
 間も吾を忘らすな
 卷十一 (浅羽土屋公園)
 ■道興准后歌碑 ひとしほのみど
 りになびく糸はけにはるのくるて
 ふ片柳かな (片柳 休台寺前)
 ■三芳野歌碑 みよし野のたのむの雁も
 ひたぶるに君がたにぞよると鳴くなる
 わが方によるとなくなるみよしのたのむの雁
 をいつかわすれむ (三芳野小学校前)

- 石川信夫歌集「シネマ」

- 蔵原伸二郎詩集「乾いた道」

入間

- 宗良親王歌碑 君の為世のため何かをしからむ捨て
 てかひある命なりせば (北野天神社)
 ■国木田独歩 「武蔵野」
 ■若山牧水歌碑 のも湯にも焚火の煙匂ひたる
 山家の冬のゆふけなりけり (神米金 若山氏宅)
 ■三ヶ島葎子歌碑 しみじみと障子うすぐらきまど
 のそと音たてて雨のふりいでにけり (宮本町 神明社)
 ■同 はるのあめけふるけやきのこずえよりをりをり
 つゆのかがやきておつ (三ヶ島 中氷川神社)
 ■打木村治文学碑 孤寒を旅ゆく (山口観音)
 ■高橋玄洋文学碑 自作の詩 (山口観音)
 ■山口青邨句碑 鶴は翔てり月の面にとどかざる (山口観音)

所沢

東
西
南
北3月～6月の主な
催し物

■県立浦和図書館

- 郷土を知る映画会

- 日時 3月27日(金) 14時

- 「城跡にたつ鉢形城」他
 日時 3月28日(土) 14時

- 「兵庫鎖太刀―氷川女体神社
 ―」他
 日時 4月7日(火) 14時

- 春の子供映画会
 日時 4月7日(火) 14時

- 「青い鳥」他
 日時 4月11日(土) 14時

- 「アステリックスの冒険」他
 日時 4月23日(木) 14時

- 新着フィルム映画会
 「ミラクル・オブ・ライフ」他
 日時 5月12日(火) 14時

- 「老けてたまるか」他
 日時 5月23日(土) 14時

- 土曜映画会
 「みょうが村見聞記」

- 県立熊谷図書館
 ●定例映画会

- 日時 3月20日(金) 15時

- 「武甲山」「巡礼」
 日時 4月17日(金) 15時

- 「群集の行動を考える」他
 日時 5月15日(金) 15時

- 「子どもたちへ」
 日時 6月19日(金) 15時

- 「竹工芸」「蔵金の美」
 日時 3月28日(土) 14時

- ビデオコンサート
 「サウンド・オブ・ライフ」
 日時 4月25日(土) 14時

- 「スターダスト・ランデヴー
 /井上陽水・安全地帯」
 日時 5月23日(土) 14時

- 「ピタゴラス・ツアー 佐野元春」
 日時 4月4日(土) 10時・14時

- 「はばたけ明日への瞳」他
 日時 4月7日(火) 10時・14時

- 「ムーミン―総集編―」他
 日時 5月2日(土) 10時・14時

- 名作映画鑑賞会
 「禁じられた遊び」日本語版
 日時 6月27日(土) 14時

- ビデオ映画会
 「ひまわり」

- 県立川越図書館
 ●子ども映画会

- 日時 3月26日(木) 10時・14時

- 「ムーミン―総集編―」
 日時 3月26日(木) 10時・14時

- 子ども映画会
 「ムーミン―総集編―」

- 日時 3月26日(木) 10時・14時

- 「ムーミン―総集編―」

- 日時 3月27日(金) 10時・14時

- 「夢の星座」他
 日時 4月7日(火) 10時・14時

- 春休み子ども映画会
 「ミッキーマウスとブルート」他
 日時 4月24日(金) 10時・14時

- 郷土を知る映画会
 「歌碑めぐり―若山牧水―」他
 日時 5月15日(金) 10時・14時

- 「映画の集い―日本の四季―」
 日時 5月15日(金) 10時・14時

- 「映画の集い―日本の食文化―」
 日時 5月29日(金) 10時・14時

- 「映画の集い―日本の食文化―」
 日時 5月29日(金) 10時・14時

- 県立久喜図書館
 ●映画会

- 日時 3月26日(木) 13時半・15時

- 「はばたけ明日への瞳」
 日時 4月16日(木) 14時

- 「緑とわたしたち」他
 日時 4月23日(木) 14時

- 「酒と健康」他
 日時 5月7日(木) 14時

- 「野鳥とともに」他
 日時 5月21日(木) 14時

- 「ほほえみの朝」他
 日時 5月28日(木) 14時

- 「氷河時代の日本」他
 日時 6月4日(木) 14時

- 「聖武天皇と奈良の大仏」他

- 日時 6月18日(木) 14時

- 「飲み水を考える」他
 日時 6月25日(木) 14時

- 「はじめての反抗」他
 日時 3月28日(土) 10時・13時半

- 名画鑑賞会
 「チップス先生さようなら」
 日時 4月25日(土) 10時・13時半

- 「みょうが村見聞記」
 日時 4月25日(土) 10時・13時半

- 春休み子ども映画会
 「ゴンザとソウザ」他
 日時 4月2日(木) 10時・13時半

- 「金色の足あと」他
 日時 4月3日(金) 10時・13時半

- 「親子パンダの物語」
 日時 4月7日(火) 10時・13時半

- スライドとレコード
 「親子パンダの物語」
 日時 5月14日(木) 14時

- 「スライド「佐渡情話」」他
 日時 5月14日(木) 14時

- 「レコード「恋し懐かしはやり
 唄」」他
 日時 6月11日(木) 14時

- スライド「唄入り観音経」他
 日時 6月11日(木) 14時

- レコード「恋し懐かしはやり
 唄」他

- 「唄」他

- 「唄」他

- 「唄」他

全ての催し物は無料です。
 会場の記入がない場合、いずれも主催
 館(印)が会場です。詳細は県立各
 館へおたずねください。

県立図書館合同蔵書 目録・分類篇を刊行

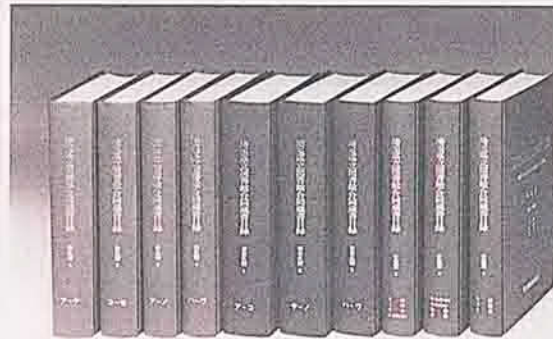
昭和56年度より始めた県立図書館合同蔵書目録の編さん事業は、今回の分類篇の刊行によって、3篇10分冊からなる第一期の刊行計画が予定どおり完了いたしました。

この分類篇の特徴は、NDC新訂8版を基に分類表として採用し、約二七五〇の分類項目のもとに分類していること、複数の主題または複合主題を扱っている図書については、各々異なる主題から検索できるように分類の重出をしていること、図書の検索がし易いように約六五〇〇項目の主題を表わすことばから、該当する分類記号を調べる索引を付けていることなどです。

書名や著者名などの固有な名から図書を探索する書名篇・著者名篇と相俟って、多角的な資料の検索ができる目録としての機能を備えたこととなります。

合同蔵書目録は県立四階の蔵書約36万冊（16万タイトル）の目録情報を集約した総合目録であるので、県民自ら各図書館・図書室の窓口で図書の所蔵調査ができること、図書館

（室）のカウンターでの資料検索業務の迅速化・能率化をもたらしたと、図書館間の資料相互貸借の有効な道具になっていることなど、その実用性を発揮しています。



県立図書館が図書館サービスネットワークの中心館として、県民への資料提供活動の一層の推進を図り、市町村立図書館への援助・協力を効果的に進めていくために、更にこの合同蔵書目録の追録版（昭和56年・61年度の新取増加図書約20万冊）を昭和62年度より3か年計画で進めております。

読書グループの紹介

地域に根ざした文庫活動を

ひしのみ文庫 白岡町

昭和四十八年二月二十八日「大山読書サークル」で出発し、自由な立場で各自がつとめて読書しようとして進めていくうちに「子供の頃から読書する習慣を身につけないとだめだ。子供にもっと本を読ませることを考えよう」と「人より多く読書している人は最後の勝者になれる」という信念もあり、「ひしのみ文庫」の誕生になりました。

図書もだんだん増えていき、時には一度に五〇万円も購入したこともあり、規約をつくり、登録制（町内や地区に限定せず誰でも利用



できる仕組になつていく）にし、幼児から小中学生・高校大学生・大人にもということで中広い分野にわたってとり揃えようと選定に苦心しました。

開放時間は、原則として日曜日の午前九時〜十一時ですが、登録者であればいつでも入室出来、利用できるようにしました。借りる方法もカード制で自分で処理できるように、ただ幼児だけは親や大きい子に面倒をみてもらうようにしました。

昭和五十四年二月二十八日に白岡中央公民館内図書室が設置されましたが、肝腎な中味がともなわなかったため、文庫の本を三千冊寄贈したり、五六年だったか？日勝農民センターへ公民館図書室の分室が増設されたので記念に千冊ばかり寄贈して、地域の読書活動が一層盛んになるようにと願いました。

機関紙も現在三八号で、読書感想文や図書紹介等を掲載し、文庫の活動状況がわかるようになりました。特に町の文化祭には特集号を編集し、一般の方々にも配布しました。今後も地道な活動を本旨とし、地域に根ざした文庫活動を推進したいと願っています。

主管者 石井 隆善

本のひろば 文学者（画家）と日記

あなたは、日記をつけていらつしやいますか。日記とジョギングは、三日坊主の代名詞とか、誰でも一度は試みたことがあるのではないでしようか。日記は、多くの場合、個人の手になるものですが、その内容からは、実に様々なことが窺われるものです。

今回は、主として明治以降日本の文学者の日記を紹介してみました。すべて県立図書館所蔵のもので、一度、読んでみませんか。

●文学者の日記

永井荷風日記 全八巻 東都書房 一九五九

「断腸亭日乗」「西遊日誌抄」「西遊日記稿」永井荷風 『荷風全集第十九、二十四巻』 岩波書店 一九七二

全一葉日記 全三巻 西尾能仁編 桜楓社 一九七六

「日記」樋口一葉 『樋口一葉全集第三巻』 筑摩書房 一九七八

「日記」樋口一葉 『樋口一葉全集第三巻』 筑摩書房 一九七八

秋田雨雀日記 全五巻 尾崎宏次編 未来社 一九六七

青野季吉日記 青野季吉日記編纂委員会編 河出書房新社 一九六四

葉山嘉樹日記 筑摩書房 一九七一

高見順日記 全八巻 勁草書房 一九六五

高見順日記続 全八巻 勁草書房 一九七七

夢野久作の日記 杉山龍丸編 葦書房 一九七六

蘆花日記 全七巻 徳富蘆花著 筑摩書房 一九八六

「日記」夏目漱石 『漱石全集第十三巻』 岩波書店 一九七五

「北遊日乗」「航西日記」「独逸日記」「隊務日記」「還東日乗」「観潮楼日記」「徂徠日記」「明治三十二年日記」「小倉日記」「明治四一〜大正四年日記」「大正六年日記」「委蛇録」森鷗外 『鷗外全集 第三五巻』 岩波書店 一九七五

「日記」太宰治 『太宰治全集第十二巻』 筑摩書房 一九七七

「日記・手帳」「二葉亭四迷」「二葉亭四迷全集 第六、七巻」 岩波書店 一九六五

「日記」幸田露伴 『露伴全集第三八巻』 岩波書店 一九八〇

「旅行日記」「床日記」「炭焼日記」長塚節 『長塚節全集 第四、五巻』 春陽堂書店 一九七八

「日記」志賀直哉 『志賀直哉全集第十、十一巻』 岩波書店 一九七三

「日記」有島武郎 『有島武郎全集第十、十二巻』 筑摩書房 一九八二

「欺かざるの記」国木田独步 『定本国木田独歩全集 第六、七巻』 学習研究社 一九七八

「小林多喜二日記」『定本小林多喜二全集 第十三巻』 新日本出版社 一九七四

「青べか日記」山本周五郎 『わが

人生観 第二八巻』 大和出版販売 一九七二

「日記」正宗白鳥 『正宗白鳥全集第十三巻』 新潮社 一九七六

「当用日記」川端康成 『川端康成全集 補一卷』 新潮社 一九八四

「日記」木山捷平 『木山捷平全集第一、八巻』 講談社 一九七八

「日記」梶井基次郎 『梶井基次郎全集 第二巻』 筑摩書房 一九六六

「日記」平林たい子 『平林たい子全集 第十二巻』 潮出版社 一九七九

●詩人、歌人、俳人の日記

日記 全三巻 石川啄木著 世界評論社 一九四八

啄木 ローマ字日記 桑原武夫編訳 岩波書店 一九七七

「日記」石川啄木 『石川啄木全集第五、六巻』 筑摩書房 一九八〇

「日記」伊藤静雄 『伊藤静雄全集全一巻』 人文書院 一九六八

「ノート」立原道造 『立原道造全集 第四巻』 角川書店



劉生絵日記より

「日記」幸田露伴 『露伴全集第三八巻』 岩波書店 一九八〇

「旅行日記」「床日記」「炭焼日記」長塚節 『長塚節全集 第四、五巻』 春陽堂書店 一九七八

「日記」志賀直哉 『志賀直哉全集第十、十一巻』 岩波書店 一九七三

「日記」有島武郎 『有島武郎全集第十、十二巻』 筑摩書房 一九八二

「欺かざるの記」国木田独步 『定本国木田独歩全集 第六、七巻』 学習研究社 一九七八

「小林多喜二日記」『定本小林多喜二全集 第十三巻』 新日本出版社 一九七四

「青べか日記」山本周五郎 『わが

人生観 第二八巻』 大和出版販売 一九七二

「日記」正宗白鳥 『正宗白鳥全集第十三巻』 新潮社 一九七六

「当用日記」川端康成 『川端康成全集 補一卷』 新潮社 一九八四

「日記」木山捷平 『木山捷平全集第一、八巻』 講談社 一九七八

「日記」梶井基次郎 『梶井基次郎全集 第二巻』 筑摩書房 一九六六

「日記」平林たい子 『平林たい子全集 第十二巻』 潮出版社 一九七九

●詩人、歌人、俳人の日記

日記 全三巻 石川啄木著 世界評論社 一九四八

啄木 ローマ字日記 桑原武夫編訳 岩波書店 一九七七

「日記」石川啄木 『石川啄木全集第五、六巻』 筑摩書房 一九八〇

「日記」伊藤静雄 『伊藤静雄全集全一巻』 人文書院 一九六八

「ノート」立原道造 『立原道造全集 第四巻』 角川書店

編集後記

昭和56年度より作業を進めておりました
県立図書館合同蔵書目録(3篇10分冊)の
刊行が完了いたしました。図書館を御利用
いただくうえで十分活用いただけるものと
期待しております。
円高・ドル安の経済情勢の中でも季節は
すすみ、まもなく四月、ビカビカの一年生
が希望に胸をふくらませ待ちこがれていま
す。
県立図書館四館協力事業の「図書館だよ
り」も本年度最後の号を無事発行すること
ができました。本年度発行にあたり、御執
筆並びに写真を提供くださった方々に、厚
く御礼を申し上げます。

- 一九七三
「日記」中原中也 『中原中也全集
第四卷』 角川書店 一九七一
「日記」室生犀星 『室生犀星全集
別巻一、二』 新潮社
一九六八
「日記」安西冬衛 『安西冬衛全集
第七、十巻』 宝文館出版
一九八二
「磯日記」『信州日記』一九一三
「一九一九」村山槐多 『村山
槐多全集 全一巻』 弥生書房
一九六三
「日記」峠三吉 『峠三吉作品集
下巻』 青木書店 一九七五
- 「人に見せる日記」『日録一、二』
「読書日記」『某月某日』金子
光晴 『金子光晴全集 第十五
巻』 中央公論社 一九七七
「日記」若山牧水 『若山牧水全集
第十一巻』 雄鶏社 一九五九
「日記抄」前田夕暮 『前田夕暮全
集 第五巻』 角川書店
一九七三
「日記」吉野秀雄 『吉野秀雄全集
第六、七巻』 筑摩書房
一九七七
「日記」斎藤茂吉 『斎藤茂吉全集
第二九、三二巻』 岩波書店
一九七五
- 「行乞記」『三八九日記』『其中日
記』『四国遍路日記』『松山日
記』『二草庵日記』種田山頭火
『定本山頭火全集 第二、六巻』
春陽堂書店 一九七三
- 画家の日記
黒田清輝日記 全四巻 中央公論美
術出版 一九六八
劉生絵日記 全三巻 龍生閣
一九七九
クレーの日記 T・P・クレー著
南原実訳 新潮社 一九六一
ドラクロワの日記 『世界教養全集
第三七巻』 平凡社 一九六二

おたすねくたさい

問 鯉幟の由来について?

答 もともとは中国で行われた
旧暦五月五日(端午)の節句か
ら来ている。古来中国では、旧
暦五月は雨季に入り高温多湿で
伝染病や毒虫の害がはなはだし
く、厄除けをしなければならな
い悪い月とされた。そこでこの
日に薬草を摘み、家の門には菖
蒲(美しい花を咲かせるハナシ
ヨウブとは別のもので薬草の一
種)やよもぎをさし、粽を食べ、

菖蒲酒を飲むなどして病気になる
ないように祈った。

この風習が日本に伝わり、古
代から邪気をはらう意味で、この
日に菖蒲を軒につるしたり家の
内に飾ったりまた身につけたり
など広く用い、近世には菖蒲酒
を飲み菖蒲湯に入ることも行わ
れるようになった。

そして江戸時代になると菖蒲
(シヨウブ)が尚武(シヨウブ)に
通じることからこの風習は、
武家階級で男児の出世健康を願

う行事として重んじられるよう
になった。男児のある家では家
の内に、弓・弓矢・刀剣など武
者人形を飾り、家の玄関前には
家紋を記した旗指物や幟や吹流
しを並べ立てた。

これに對抗して江戸中期以降、
町人階級が武具代りに戸外に立
てるようになったのが鯉幟であ
る。鯉は中国の竜門伝説(黄河
上流の竜門にのぼることのでき
た鯉は化して竜になる)から立
身出世の象徴とされ、最初の頃

参考文献

- 「平凡社大百科事典」5・9
「日本の年中行事」金園社
「植物の故事ことわざ事典」
アロー出版社